

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に見えるところに掲載し、勉強会などを通し、理念に書かれていることを実際のケアに活かすということがどういふことが考えながら取り組んでいる	代表者の創業の理念、企業理念、ホーム理念があり、その主旨は一環している。それらの理念を職員同士で話し合い、更に具体的に示した各ユニットの理念が掲示されており、家族や来訪者にも分かり易くなっている。新入職員研修時に理念について周知し、引継ぎ時や会議で確認し合い実践に努めている。利用契約時に利用者や家族にも理念の掲載されたパンフレットで目指す方向性を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物に出かけたり、ボランティアさんに来ていただいたりしながら、施設内だけで生活が完結しないように努めている	町会費を納め、区長から料理教室や運動会などの地域の情報を得ている。ホームの近くの道路で地域全体として取り組んでいる花街道の花壇づくりに利用者と職員で参加している。地区の中学生の職場体験学習も受け入れており今年度は男子3名が来訪している。また、地元高校の生徒の職場実習の受け入れもしている。今年、ホームの敬老会に近所の方に初めて参加していただいた。民生委員の紹介で民謡のボランティアも訪れ、大正琴、オカリナなどのボランティアも利用者と交流している。近所の方からキュウリやナスなどの野菜、果物なども頂いている。地域との交流が徐々に進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験で来所した学生さんに対し、認知症についてのこと、施設がどんなところか、自分たちの仕事がどんなことかなどを知って頂く機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議までの間の施設の状況報告を行い、それに対し意見を頂いている。現在、防災に関しては、施設として地域の方の協力を得ながら取り組むにはどうしていくかを特に重点的に取り組み始めている	区長、民生委員、市担当者らの出席を得て奇数月の月末に開催している。今年9月の会議には近所の方3名に初めて参加していただいた。事業所の利用状況や活動内容が報告され、課題である防災については重点的話し合っていた。若い管理者や職員によりパワーポイントを使った説明がされておりビジュアルで分かり易く、冬の除雪機の使い方などについてのアドバイスをいただくなど委員からの意見・助言を運営に活かしている。	家族の参加が不定期であるように思われる。一番身近な家族が参加され、忌憚のない意見や要望をいただくことでホームの運営やサービスの向上につながるものと思われる。広く参加を呼び掛けることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、市の職員さんに施設の現在の状況を知っていただけるよう努力している	定員に空きができそうな時には予めホームからその旨を記載したFAXを送付し利用者の紹介をお願いしている。市担当者が敬老会に参加し利用者の様子や雰囲気を見ている。介護認定の更新時には遠方の家族からの依頼で代行することもある。区分変更に関しては家族から相談があったり、本人の様子を見てホームから家族に相談した後、家族が申請をしている。市の認定調査員が来訪した時は本人の様子を伝え、近くに住む家族で同席する方もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず、玄関の自動ドアは中から開かないようにはなっているが、外に出たいと希望があれば職員が付き添い、自由にできる環境になっている	年間の研修計画の中に「不適切ケア」として組み込み職員は身体拘束に頼らないケアの提供に努めている。利用者の状態によりリスクを回避するため離床センサーを使用することもあるが、あくまでも一時的、補助的なもので人員体制の厚い時には外す努力をしている。その場合も介護日誌に記録を残している。職員は利用者の行動を制限する行為や拘束の内容を理解しており利用者の自由な暮らしを支援している。デイサービスの延長で夕方になると玄関に足を運ぶ利用者もいるが言葉がけをし、場合によっては外に一緒に出て気分転換を図っている。	

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも起こりうることを十分に理解し、防止に取り組んでいる。勉強会の開催、利用者様に変化がないか、常に様子を見ている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通し、制度についての理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規の利用者様に関しては予め契約書に目を通して頂いた上で、十分な説明をしている。家族からの質問には曖昧な答えはせず、施設としてできる事、できないことに関してはきちんと理由を伝え、ご納得いただけるよう話をさせて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の契約で伝えるとともに、玄関に用紙を設け言いづらいことは匿名で伝えることが出来るようにしている。また、実際に意見をいただき、改善に努めた事例もある	ユニットの利用者でやや自分の思いや意見を言葉で表出することの難しい方がいるが目の表情や行動、仕草で何らかの思いを表わしており、特に、拒否される時にははっきり出せる方もいる。家族も近くの方から遠方の方までおり来訪の頻度も様々であるが、状態の変化が利用者に見られた時にはホームからの連絡に合わせ来訪し無事を確かめ安堵している家族もいる。ホームの敬老会には8割強の家族が参加し家族から要望や意見を聞いている。家族向けの「ホーム便り」は写真入りでひまわりユニットではほぼ毎月1回、時には増刊号も出している。便りを見た家族から自宅では見せたことのない様子を「こういうことも出来たんだ」と驚きをもたれている方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、人事考課面談を通じ、職員からの意見は、どうしてそう考えたのか？どんな場面でそう感じたのか？考えに至った理由をきちんと聞き運営に反映させている	法人の施設管理者と介護主任による管理者会議、ホームの管理者とケアマネージャー及び各ユニット2名ずつのリーダーが集まるリーダー会議、各ユニット会議などがあり、それぞれ月1回開催されている。職員の意見・提案なども出され、利用者の受け入れや職員の異動についても報告されている。人事考課制度に沿って職員は自己目標を立て、半期毎に自己評価し管理者と面接している。サービス面や運営面での意見や考えを伝えたり個人的な相談もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課面談を通し、スタッフが自己の取り組みについてアピールできる機会を設けている。それ以外にも、個々にスタッフの様子を見て声をかけ、面談などを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ケアの中で必要な知識について勉強会を設けている。外部の研修については案内がある度に掲載し、興味のあるスタッフは参加できるようにしている。また会社研修を取り組み始め、全スタッフが参加できるようにしている		

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社研修を通し、他施設のスタッフとともに勉強をする機会を設けている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本施設利用以前のケアマネージャー、施設のケアマネージャーと協同で細やかな基本情報の交換や、生活の様子をご家族に伺ったりし、ある程度利用者様について知った上で、入居を迎えられるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約時や初回のケアプラン作成時にご家族の不安なこと、要望などを伺ったり、来訪時や電話等でも話す時間を持っている。またスタッフからも生活の様子を必要に応じ家族にいつでも伝えられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを通じ、入居前の面談等を通し、本人やご家族の思い、まず何が必要か見極め、ご家族にケアプランとして提案し話をする時間を設けている。またそれがスタッフにも伝得られ、ケアの中での気づきはケアマネに伝えられる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを探し、どうやったらそれができるのかを利用者様と一緒に取り組んでいる。例えば料理の味付けを教わったりなど長年の生活の中で得てきたことを特に大切に一緒にできることには取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族と本人がゆっくと過ごせるように場所の工夫をしたり、普段の利用者様の生活の姿を伝えるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のみならず、ご本人の知り合いの方の面会もある。また、面会者と本人が気持ちよく過ごせるよう場所の配慮もしている	かつての職場の友人や仲人など、利用前からの馴染みの方の訪問を受ける利用者があり、利用後も継続できるように支援している。お盆やお彼岸に家族が迎えに来て一時帰宅し家族と過ごす利用者もいる。週に1回必ず自宅に帰り泊まる利用者もいる。自宅から継続して携帯電話を持ち込んでいる利用者や年賀状の返信を書く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ、スタッフが利用者様同士の会話の橋渡しの役をしたり、利用者様同士の相性も考えながら、孤立する利用者様がいないように配慮している		

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族、本人からの希望があれば支援できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたいかという本人の気持ちを日々の声かけや関わりの中から探っている。またスタッフが決めてしまうのではなく、選択肢の中から利用者様に選んでもらうことを大切にしている	ユニットの利用者の中には言葉での意思表示が難しい方がおり声がけの工夫をし仕草や表情から思いを推し量っている。利用開始時は在宅時の生活から集団生活に移行するので生活する上での必要なアセスメントを家族とともにやっている。ホームに慣れるに当たって当初のアセスメントになかったことも浮かび上がり、職員間で共有し、一人ひとりの利用者の思いを理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	予めご家族や、施設利用以前のケアマネジャーからの情報以外に、支援をする中で、そこにはない本人の姿を知るためにケアマネジャーを通じご家族に本人の昔の姿を聞いたりなどし、ケアに生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランのモニタリング、ユニット会議内でのカンファレンスなどを通じ、本人の現在の状態を客観的に把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心となり、ユニット会議内で行われるカンファレンスやユニットのスタッフとのこまめな情報交換を基に、利用者様の様子をこまめに把握し、家族と情報交換をしながら、介護計画の作成につなげている	居室担当の職員がいるが、毎月のユニット会議の中で全職員によるケアカンファレンスを行い一人ひとりの利用者の課題等を検討しつつ情報の共有化を図っている。ご本人の意向について改めて聞くことは難しいが、日ごろの会話や観察、つぶやきなどから推し量り計画に反映している。一人ひとりの生活が維持向上できるように介護計画は計画作成担当者を中心に職員の見も取り入れながらユニット会議の中で検討されている。短期目標は3ヶ月、長期目標を6ヶ月に設定し、見直しも期間に合わせ現状に即しているかどうか確認している。家族の来訪時には介護計画の進捗状況を報告したり意向の確認もし、状態の変化が生じた時や期間の終了に伴い作り変えた場合には本人や家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には利用者様の表情や仕草、言葉を大切に記入している。また、記録に残すことでその場に居ない職員も知る事ができる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべての職員が協同で利用者様やご家族とコミュニケーションをとる事で様々な意見を聞くことができ、ケアマネジャーを中心に、その方に応じたサービスの可能性を探っている		

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設スタッフと、利用者様のみで生活が完結してしまわないように訪問看護、歯科、美容師、往診等利用者様に対する来訪があったり、一緒に買い物などに出かけたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に至るまでの様子をきちんとご家族に報告したり、家族が付き添えない時にはきちんと報告をしたり、家族付き添いの受診についても戻ってきた時にどんな様子かご家族から伺うなど情報共有している	内科医については利用前からのかかりつけ医を継続しており、ホームの協力医の往診があることからそちらを選択していただくことも可能となっている。ホームでは定期受診を重視しており、基本的に付き添いは家族にお願いしている。スムーズな受診につながるよう受診カードを家族に渡し、「本人の情報、容態等」が分かるようにし、受診後は受診結果をカードの裏に記録している。訪問看護師が週一回来訪しており、健康管理や相談に乗っており、24時間365日連絡が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化につながりそうな気づきは早めにスタッフ間で共有し、ご家族にも報告をし、訪問看護師に相談している。特に夜間、急な受診が必要な場合でもすぐに対応できるようオンコール体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している利用者様がいるときには面会の際、必ず病棟の看護師に声をかけ、現状を聞くようにしている。また、介護記録に本人の様子、看護師に伺ったことを残している。また退院時のサマリーを基に退院後のケアの仕方、居室の環境づくりにも配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常の中での急変に関してはご家族に意向を伺っている。また、終末期を迎える利用者様についてはご家族、医師、訪問看護師、施設スタッフと改めてカンファレンスをし、終末期に於いての契約を行う	今までに数名の方の最期を家族と共に看取っており、今年の夏も90歳代後半の利用者を看取っている。重度化や終末期に向けたホームの方針では基本的に医療行為が必要な場合には受け入れは難しい旨を伝えていたが、本人や家族がホームで最後までとの意向があればそれに沿った支援をしている。職員も看取りに関する勉強会を重ね不安を取り除くようにし全職員で方針を共有しながら本人や家族を支えている。今夏のお別れの時にも利用者は手を合わせお見送りをしたという。いつも席を同じにしていた利用者で一時的に気分の落ち込んだ方もいたが比較的早く元へ戻ったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署に依頼し、AEDを使って救命救急の仕方、怪我等の応急処置の仕方を教わっている。また、避難訓練の定期開催などを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に指導を頂き避難訓練の実施をしている。地域との協力体制についても取り組み始めている	年2回、昼・夜想定訓練を消防署の協力を受け実施している。通報連絡、消火訓練を実施し避難誘導訓練には利用者も参加している。スプリンクラー、自動火災報知機、非常通報装置、誘導灯などが完備されており、今年度、ニヶ所ある避難口付近の地面も車椅子利用者に配慮し砂利から舗装に変更した。防災訓練とは別にAEDの使い方、心肺蘇生法、止血法なども行われている。食料品等の備蓄も確保されているが、更に内容について精査している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった声のかけ方、工夫などを するよう努めている	利用者の得意とするところを日常の役割としていただき、昼食時にほめたえ利用者が楽しく暮らせるようにしている。職員は利用者一人ひとりの誇りに思っていること、不快に思うことを把握し声掛けしている。呼びかけも個別に敬意を持って、基本的には苗字に「さん」、名前に反応ある方には名前で、他には「所長さん」、「先生」等と呼ばれている方もいる。利用者間でもお互いに認め合い、一人ひとりの利用者が身の置き場をわかまえており、病気はあっても穏やかな人付き合いができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを決める際に、利用者様が選択できるような働きかけをしたり、本人がどんな思いや希望を持っているのか意思表示できるような声かけをするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを壊さないようにし、気の向かない時などは無理にすることなく、気が向くのを待ったり、気の向くような声かけをしたりしながら、今何がしたいのか？本人の思いを知るための声かけをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの際には着たい服を選んだり、鏡を見て整容をしたり、外出の際には着たい上着を選んでいただく等工夫をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けにも携わって頂く事で、食べる楽しみを持ち、食事に対する意欲を引き出せるよう工夫している。また、メニューも何が食べたいか、利用者様に相談し決めることもある	ユニットでは全介助の方が1名、一部介助の方が1名いる。利用者も職員と一緒に料理の下ごしらえ、調理、盛り付け、片付け、食器洗いなどできる範囲で行っている。父の日にはうなぎを食べたり、誕生日にはお寿司などで祝ったりしている。夏祭りにはベランダでバーベキューをし外気を浴びながら料理を楽しんでいる。おやつにはホットケーキやうすやきせんべいなどをつくり、今年は恵方巻きにも挑戦した。メニューは職員が考え、ユニット毎に異なっている。プランターで夏野菜などもつづけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食べる量、食べやすさ等を考えそれぞれにあった状態で提供している。また、食事を摂れないときには無理強いせず、口のできるもので補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る範囲のことはその人の力を頼りにし、できない部分は手伝わせて頂く。また、その時に気が向かなくても、時間をおいて誘うことで出来るだけケアに繋がるように支援している		

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握をし、おむつを使用している方でも、なるべくトイレ誘導をするなどし、本人の力に頼った排泄支援ができるように努めている	ユニットでは自立の方が3名で意思表示できる方も6名で何らかの介助を受けている。日中は布パンツ3名で(1名シート使用)リハビリパンツ6名と利用者の状態に合わせている。ポータブルトイレ使用の方も3名いる。利用開始後、職員がトイレ誘導を心がけた結果、リハビリパンツから布パンツに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取などにも気をつけながら、本人の排便の様子に合わせて下剤の調節を行ったり、牛乳を飲んだり、腸のマッサージなどを行ったりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ユニットで決めた日はあるが、本人の体調や気分配慮し、入りたくない方には別の日にしたり、本人の入りたいタイミングに合わせて誘う等工夫している	「かたくりの湯」の大きな暖簾をくぐると洗濯場兼脱衣室があり、目隠し用のアコーディオンカーテンが設置されている。浴室は広く、三方から入浴できる個浴槽と特殊浴槽がある。車椅子を使用している利用者は職員二人の介助を受けチェア浴や個浴槽で入浴している。浴室用の畳マットや遠赤外線ヒーターなど湯冷めをしないように配慮がされている。あさがおユニットは月・木、ひまわりユニットは火・金に入浴日を分けて浴室を使っている。午前か午後、好きな時間にお風呂に入れ、空いている曜日にも入浴は可能である。菖蒲湯、リンゴ湯、ミカン湯など季節に合わせてお風呂が利用者に喜ばれている。拒む利用者には言葉掛けや時間をずらし工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に自由に居室や、共有スペースで休む事もできる。また、夜間でも眠れない利用者様には無理に寝る様に促すのではなく、ホールや共有スペースなどの落ち着いた場所で眠たくなるまで過ごせるように工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりに合わせ、飲みやすいように工夫をしている。また、飲み忘れがない様に注意を払ったり、常用薬、頓服薬等で副作用が出ないか状態を観察したり、薬が変更になった際はスタッフに周知できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の好きなことや楽しみを探し、支援に活かせるようにしている。また、タバコを吸いたい時に吸えるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の中で行きたい場所、思い出の場所などを聞いて出掛けたり、外出に出かけたり、常食の食べられない方でも、デザートなど食べられるものを食べに出かけるなど工夫をしている	日ごろはホーム周辺を散歩したり、近くにあるスーパーへ買い物に出掛けている。ユニットでは花見を兼ねおむすび持参でお城の見学に出掛けている。バラやアヤメの見物、桜並木や公園のある図書館のカフェでお茶を飲んだり、すぐ近くの和食処でおそばを食べたりして楽しんでいる。市の花街道活動に今年度も参加しており、職員が主としてリードする形であるが毎日担当しているマリーゴールドの水遣りに利用者も出掛けている。	

グループホームかたくり・あさがおユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては自分のお財布からお金を出し買い物をしたり、外出の際に自分の必要なものを買ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、電話したいとの訴えのある時は、できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑さ、寒さについては空調やカーテンなどを使って工夫したり、季節にあった飾り付けや、行事で季節感を感じてもらえるように工夫している	共通の玄関を入ると正面に2ユニットの食堂が目に入る。中央で区切られているが仕切りは半分開けられており広々としている。居室前の廊下や食堂の壁には行事の写真や手の込んだ東海道五十三次の塗り絵や貼り絵などの利用者の作品が掲示されている。利用者は食堂のテーブルで新聞読み、洗濯物量み、料理の下ごしらえ、作品作りなどをしており、明るく、快適な環境が整備されている。トイレも広く、後付の手摺りも設置され、玄関や共有スペースなどの視界に入らないように配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室だけでなく、座敷があったり、隣のユニットで過ごしたり等もできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、家で使っていた家具や寝具を持ってきて頂いたり、写真や、手紙などが居室に飾られたりしている	居室の入口には表札代わりに花が描かれたステッカーが貼られている。室内はフローリングでロッカー、タンス、ベッド、エアコンが設置されている。タンスの上に自分で作った人形やぬいぐるみが置かれ、季節に合わせたセーターなども置かれていた。ユニットではクィックルで自分の居室を掃除する方もいる。居室は清潔で整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレとわかるように張り紙がされたり、利用者様によっては居室に名前が貼り付けてある方もいる		